

た。膵の部分的欠損像は、膵癌を意味する事が多いが、尾部の欠損像については、位置異常、局所的な膵炎である事も多い。

33. 膵シンチグラムの評価

佐々木常雄
(名大・放)

現在までに実施した膵シンチグラムは数百例に及び、膵病変以外の疾患では殆どの症例において膵影の描出は良好である。膵癌、慢性膵炎、膵嚢腫などの場合における膵シンチグラムによる診断

能もかなりの信頼度をもたれていることを以前から報告してきている。

今回は名大病院放射線部における膵シンチグラムの実施件数、疾患の分布、診断能について評価する。実施件数は S48, S49, S50 の順に増加してきている。病巣は慢性膵炎、膵がん、膵嚢腫が主病変であり、慢性膵炎では膵影が正常に描出される場合が多いが、石灰化を示す場合には、膵影は全く描出されていない。膵がんでは病巣の部位に一致して欠損を示し、また膵嚢腫も病巣の局在に一致して欠損が認められる。従って診断能もかなり高いことが認められる。膵シンチ施行の要請も膵病変を中心に集約される傾向を示している。